

第17回・第18回環境教育講座報告

環境委員会 三好 真介
(株式会社MORESCO)

日本真空工業会(JVIA)環境委員会の主催によって年2回の環境教育講座を開催するようになって今年(2016年度)で9年目になります。2014年に日本半導体製造装置協会(SEAJ)環境情報専門委員会と共催するようになり3年目、今年は2016年12月2日に東京(第17回)で、2017年2月10日には大阪(第18回)で、どちらも株式会社島津製作所様に会場をお借りして開催しました。ここまで続けてこられたのも、ひとえに会員企業様のご支援のおかげと感謝申し上げます。

参加者は、東京51名、大阪28名(SEAJ・JVIA各委員+JVIA事務局含む)でいずれも昨年よりも多くの参加者に恵まれました。やはりたくさんの方に参加いただけるというのは開催する側にとっては嬉しい限りです。

講演内容につきましては、皆様からのご要望が多い法令や規格の内容及び最新動向について、毎年好評の会員企業における事例紹介等も交えながら、両委員会にて検討を重ね決定しております。

東京と大阪のプログラムは基本的には同じであり、開会の挨拶、JVIA環境委員会の活動紹介、SEAJ環境情報専門委員会の活動紹介を各委員長から紹介いただき、午前に3講座、午後3講座を行うという内容です。

今回の講演内容と参加いただいた方のご意見を一部ご紹介致します。

1)「国内環境関連法令の変遷」

(住友重機械工業(株) 大西 淳氏)

国内及び海外において、環境に関連する様々な法律があります。この講座では、主に日本における法律の成り立ち、移り変わりについて、その理由も合わせて説明致しました。例えば最近大きな話題になっている事件から、土壌汚染対策法が厳しくなる可能性

があるという話があり、社会情勢と法律の改正に関わりがあることを感じていただけたと思います。

参加者からは、法令の重要性、改正の必要性が理解できた、今後の法改正の方向性をイメージできた等の意見をいただきました。

2)「環境法令実務管理の注意点」

(株島津製作所 三ツ松 昭彦氏)

特に国内の環境法令遵守に向けた管理の考え方、社内体制の構築や運用に関する注意点に関する内容です。全ての人が環境関連法令に関わりがあり部外者はゼロであるということ、各部門がやるべきことをまとめたマトリックスを用いてご説明し、皆様にご理解いただけたと思います。

参加者からは、このマトリックスが大変参考になり、そのまま社内で用いたいというような意見がたくさん寄せられました。

3)「産業廃棄物の管理」

(アルバック機工(株) 田之上 正典氏)

産業廃棄物の分類や適正処理についての解説、また違反事例や事故・ヒヤリハット事例をご紹介し、日常の中で注意しなければいけないことについてご説明致しました。また産業廃棄物管理票(マニフェスト)の流れについてもご説明し、電子マニフェスト義務化の動きについてもご紹介致しました。

参加者からは、実例があってわかりやすかった、参考になったという意見を多くいただきました。また産廃処理で重要なマニフェストの流れ等も理解しやすかったと好評でした。



講義風景(第17回環境教育講座in 関東)



SEAJ・JVIA委員(第17回環境教育講座in 関東)

4)「ISO1401:2015の解説」

(東京:ウシオ電機株) 伊藤 功人氏、

大阪:(株)荏原製作所 三好 慶氏)

ISO14001は1996年に規格化され、2004年と2015年に改訂されています。この講座では、ISO14001の概略をご説明した後、2015年の改訂内容について、ポイント、背景、移行スケジュール例を中心に解説致しました。また適切な期間に移行を行わないと2004年版は効力を失うという注意点も説明の中にありました。

参加者の中には、ISO14001の内容自体をよく知らない方も多く、今回とても参考になったというご意見を頂きました。

5) RoHSおよび各国の製品含有化学物質規制

(日本電子株) 西山 寛之氏)

欧州発の電気・電子機器の含有化学物質規制であるRoHSの考えは、近年世界各国で適用されています。この講座では、主に欧州のRoHS指令を中心に、概要から最新情報まで解説致しました。またRoHS指令は生きた法律であり、規制物質の増加や適用除外に有効期限があることもご説明致しました。

参加者からは、業務を進める上で必要な内容なので、理解を深めるのに役立つ、という意見が多かったものの、難しかったという意見も少なからずありました。このテーマに関しては今後も継続して実施すべき内容ですので、ご意見を参考にさせていただきたいと思えます。

6) 欧州REACH規則の概要

(株)SCREENビジネスサポートソリューションズ 今宮 良祐氏)

装置メカの視点で、製品に含有する化学物質の、欧州REACH規則等への対応について解説致しました。また、最新の情報や新しい化学物質調査ツール(chemSHERPA)も簡単に紹

介致しました。

重要な欧州の規則を理解できたという感想が多かったのですが、RoHS同様専門的な内容も多く、難しかったという意見も寄せられました。

すでにいくつかご意見を紹介しておりますが、本講座終了後参加いただいた皆様にアンケートを実施しております。その結果から、東京でも大阪でも概ね“参考になった～まあ参考になった”という回答を頂いており好評であったと考えております。このような講座は継続して欲しいという声も多かったため、環境に対する関心はより深くなっていると感じました。また色々参考になるご意見もたくさんいただいておりますので、今後の改善に繋げていきたいと思えます。

2016年9月に開催されたVACUUM2016真空展では、「初心者向け環境法令Basic講座」を開催し、本環境教育講座よりも易しい、初心者向けの講座を行いました。VACUUM2017真空展でも同様に初心者向けの講座を行う予定ですので、ご興味を持っていただける方には是非参加いただきたいと思えます。冬季にはまた東京と大阪にて環境教育講座を開催する予定です。そこでは皆様のご要望を取り入れ、最新情報もご紹介できる内容にする予定です。環境に対する配慮というのは、今後ますます大切になっていくと考えられるので、当環境委員会では、今後もこのような講座を中心に会員の皆様のお役に立てるよう活動していきますので、どうぞよろしくお願い致します。



講義風景(第18回環境教育講座in 関西)



SEAJ・JVIA委員(第18回環境教育講座in 関西)